

5) 血液内科

1. 診療体制と患者構成

1) 診療科長名 高山 信之

2) 常勤医師数、非常勤医師数

常勤医師：3名

非常勤医師：2名

3) 指導医数、専門医、認定医数

認定内科医：3名

総合内科専門医：1名

日本血液学会認定医：2名

日本血液学会指導医：1名

4) 外来診療の実績

血液外来は日常診療が既に専門外来であるので、特別な専門外来は設けていない。

患者総数 10,408名

初診患者数 597名

5) 入院診療の実績

患者総数 641名 (261名)

主要疾患患者数

急性骨髄性白血病 42名 (19名)

急性リンパ生白血病 15名 (7名)

骨髄異形成症候群 65名 (14名)

非ホジキンリンパ腫 320名 (125名)

ホジキンリンパ腫 34名 (10名)

多発性骨髄腫 50名 (30名)

再生不良性貧血 45名 (7名)

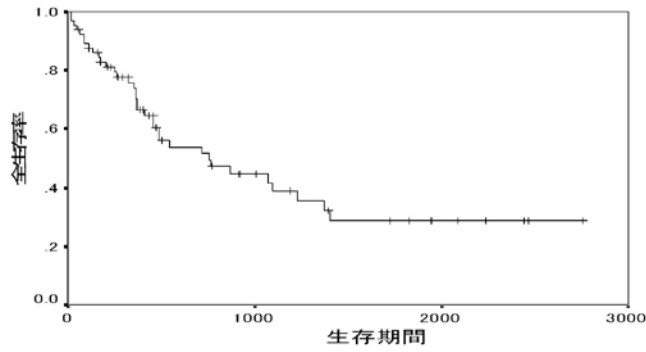
特発性血小板減少性紫斑病 10名 (10名)

(カッコ内は、複数回入院患者を1と数えた場合の実患者数)

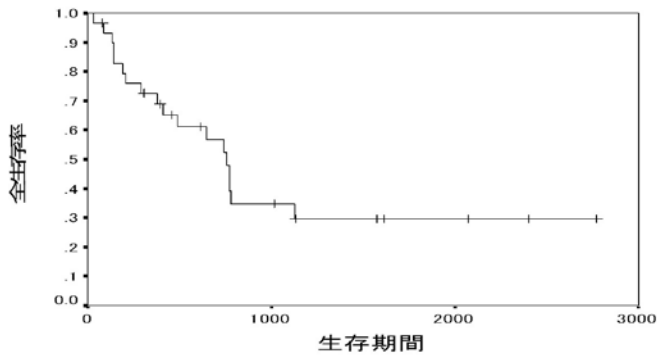
主要疾患年度別新規入院患者診療実績

	H16	H17	H18	H19	H20
新規入院患者数	125	137	138	158	156
急性骨髄性白血病	10	14	16	12	12
急性リンパ性白血病	4	6	4	5	3
慢性骨髄性白血病	3	0	0	2	5
ホジキンリンパ腫	6	5	4	3	6
非ホジキンリンパ腫	39	41	49	73	77
多発性骨髄腫	10	13	8	23	13
再生不良性貧血	6	0	0	2	6
特発性血小板減少性紫斑病	8	4	8	9	9
延べ入院数	279	479	482	519	641

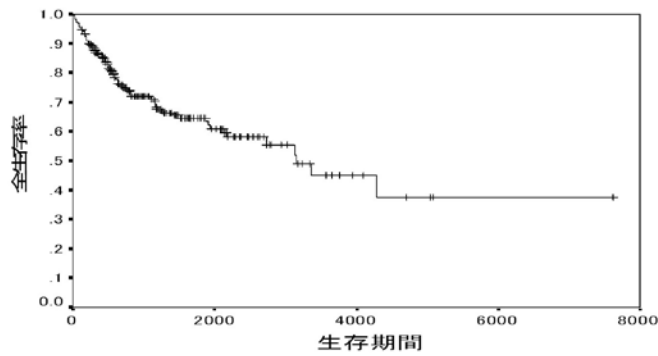
死亡患者数 41名
 剖検数 11名 (剖検率 26.8%)
 主要疾患5年生存率 (Kaplan-Meier生存曲線は別紙)
 急性骨髄性白血病 28.67%



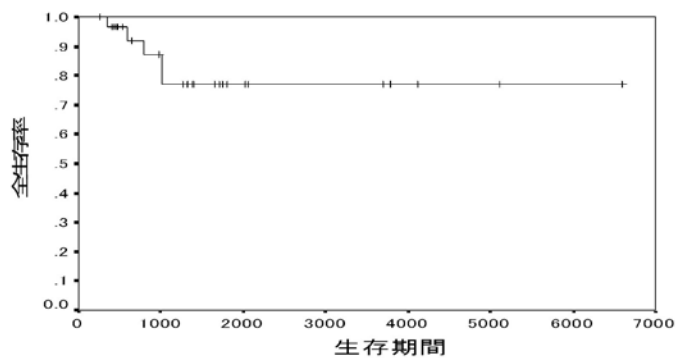
急性リンパ性白血病 29.9%



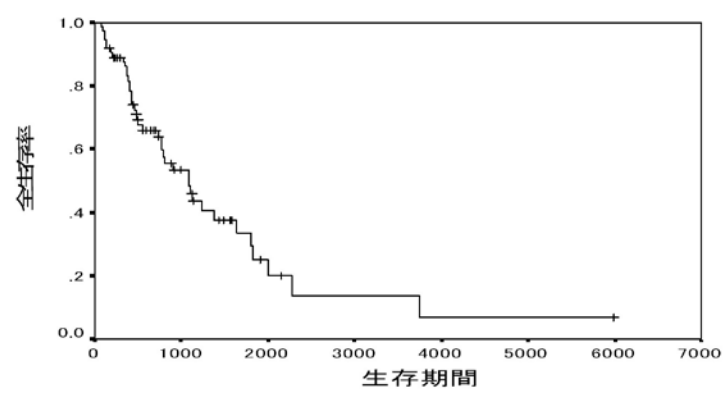
非ホジキンリンパ腫 64.6%



ホジキンリンパ腫 76.9%



多発性骨髄腫 25.1%



2. 先進的医療への取り組み

化学療法に関しては、分子標的治療薬として、慢性骨髄性白血病に対するイマチニブ、ダサチニブ、ニロチニブ、また抗体療法として、1) B細胞性非ホジキンリンパ腫に対するリツキシマブ、2) 急性骨髄性白血病に対するゲムツズマブ オゾガマイシン、その他、多発性骨髄腫に対するボルテゾミブ、サリドマイド、急性前骨髄球性白血病に対する三酸化砒素、などの先進的治療を積極的に行っている。

造血幹細胞移植に関しては、平成14年より自家末梢血幹細胞移植、平成16年より血縁者間同種骨髄移植、平成17年より血縁者間同種末梢血幹細胞移植、平成20年1月より非血縁者間骨髄移植、同年8月より非血縁者間臍帯血移植を開始している。また、平成19年12月より非血縁者ドナーの骨髄採取を開始している。

3. 低侵襲医療の施行項目と施行例数

特になし

4. 地域への貢献

多摩地区の血液内科医を中心として、多摩造血器腫瘍研究会、多摩造血因子研究会、多摩血液懇談会、多摩悪性リンパ腫研究会、多摩支持療法研究会、Tama Hematology Expert Meetingに参加している。

不定期であるが、地域の開業医を対象とした勉強会にて講演を行っている。